【発掘調査と現地見学会】

空久保遺跡における遺構や遺物包含層（土器や石器などを含む層）の有無と遺跡の残存状況を確認することを主な目的に、9月14日（月）から26日（土）まで発掘調査を行いました。昨年度は同じ弥生時代の遺跡として知られる積善山山頂にある積善山遺跡での発掘調査を実施しました。本調査では、その成果も踏まえて弥生時代における岩城島の土地利用を考えるための基礎資料を得ることを目指しました。

調査では、弥生時代中期中葉の弥生土器をはじめ、磨製石斧や石鏃に加えて、石器を製作する際に剥ぎ取られた石片（剥片）や剥ぎ取られた残りの石の塊（石核）が出土しました。剥片や石核は、この周辺で石器が作られたことを示しており、岩城島の弥生人が積善山の山腹で営んだ生活の一端を知る手がかりとなりました。

調査の後半に開催した現地見学会では、発掘調査箇所や出土遺物を公開するとともに、児島公尊さんが空久保遺跡で採集した弥生土器や石鏃などを展示しました。当日は秋の大型連休の期間中でもあり、町内外からの多くの見学者が本遺跡を訪れました。

見学者は、柑橘畑や山林である場所に弥生時代の遺跡があることに驚き、学生さんからの遺跡や出土遺物の説明に耳を傾け、いにしえの郷土の姿に思いを馳せました。

今後も海と山に囲まれた立地にある空久保遺跡の調査を継続して実施し、岩城島の弥生時代における生活様式や環境を明らかにする計画です。

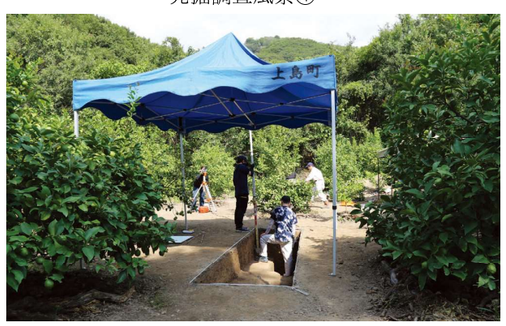

発掘調査風景①


発掘調査風景②


発掘調査風景③

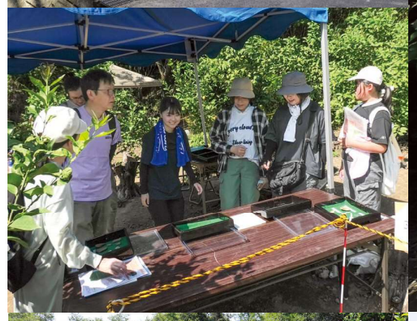

発掘調査風景④


発掘調査風景⑤



発掘調査風景⑥





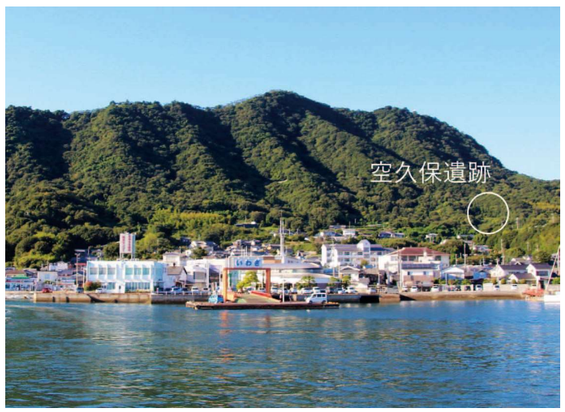




9月22日（火・国民の休日）に、岩城島にある空久保遺跡において、愛媛大学法文学部考古学研究室と上島町教育委員会による空久保遺跡第１次発掘調査現地見学会が開催されました。

【積善山の南麓にある空久保（そらくぼ）遺跡】

空久保遺跡は、岩城島の積善山から南へ続く丘陵上、標高約70～80mの地点にある遺跡です。これまで郷土史家の児島公尊さん（故人）によって、果樹園やその周辺で今から約2,100年前の弥生時代中期中葉の弥生土器とともに多くのサヌカイト製の石鏃や剥片が採集されてきました。岩城島の北西に位置する広島県尾道市の生口島でもこの時代の多くの遺跡が標高70～80m付近の見晴らしのよい斜面に立地しています。



空久保遺跡



空久保遺跡・積善山遺跡　位置図